

インフォメーション

申込み・問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp



市民活動団体の組織運営基盤強化事業 「社会を変えるアクションプラン・スクール」 全4回連続

組織力・事業立案力を身につけ、戦略的な事業経営を実践するための学びの場（スクール）です。
オープンセミナーを含め全4回のプログラムを通じて、それぞれの組織の課題を把握し、解決へ向けたアクションプランを検討していきます。

- | | | | | | | | |
|----------|--|----------|--|----------|---|----------|--------------------------------------|
| 1 | 11月19日(土)
午前10時～午後4時半
組織のビジョン・ミッションの基本 | 2 | 12月9日(土)
午前10時～午後4時半
事業計画と
ロジックモデル作成の基本 | 3 | 12月23日(土)
12月24日(日)
アクションプラン作成に向けた
専門相談会 | 4 | 1月13日(土)
午後6時～午後8時
アクションプラン発表会 |
|----------|--|----------|--|----------|---|----------|--------------------------------------|

対 象：社会課題の解決を目的としている組織の事務局長など事業企画に関わる方、中堅スタッフの方。
1団体2～4名での参加を基本とします。スクール全ての日程参加を条件とします。
内 容：成果を意識した事業企画の立案方法を学ぶためのスクールです。第1回・第2回で理論と手法を学び、第3回の専門相談会で参加者それぞれに合ったアクションを選定。第4回の最終発表に向けてアクションプランを作成します。アクションプラン検討後も、当センターが伴走型相談でサポートいたします。
講 師：株式会社PubliCo 講師
定 員：10団体（1団体2～4名での参加を基本とします）
参加費：5,000円（1団体あたり） 9月8日にお支払いいただきます。
会 場：仙台市市民活動サポートセンター

サポセンスタッフから



市民の情報発信が地域の価値をつくる ～市民ライター講座2017～

2015年から毎年開催している市民ライター講座。今年も地元紙・河北新報社の協力のもと、10月4日からスタートしました。10月14・15・21・22日の4日間、受講生18名は実際に市民活動団体の現場に取材に出かけました。取材先は、母と自分を語る会、NPO法人ドットジェイビー、こひつじる〜む、地域生活支援オレンジねっと、カワラバンの6団体。仙台で活躍する市民活動団体を市民目線で書き、多くの人に活動を知ってもらおうことを目指します。執筆した記事の中から6本が、11月30日の河北新報夕刊に掲載予定です。お楽しみに！（松村）
サポセン@仙台 http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1



▲広瀬川で活動するカワラバンを取材する受講生

市民ライターや学生記者が、
仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！
▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1
▶情報ボランティア@仙台
<https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai>

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2017年11月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鈴木美紀 宮崎真央 小野真璃子
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 11月8日(水)、22日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]<http://www.sapo-sen.jp> [Blog]<http://blog.canpan.info/fukkou/> [Twitter][@sensapo](https://twitter.com/sensapo)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

ぱれっと 11

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2017 No.219

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

Hair Designer

しらとり

白鳥 ゆい さん (34)

キレイを誰にでも 自宅へ笑顔を届ける

「障がいなどの理由で美容室に行けない人を、自宅に訪問して髪を切ることで笑顔にできるのが嬉しい」と話すのは、泉区在住の白鳥さん。店舗を持たず、外出が困難な方の自宅へ出向いて髪を切ります。カットの合間の何気ない会話で、身も心も軽やかになります。高校時代、メイクに興味がありましたが、幅広く美容に関われることに可能性を感じ美容師を志望。高校卒業後、美容室で働きながら専門学校に通い国家資格を取得。2007年からは、東京で美容師を続けました。しかし2013年、母親が病気で介護が必要になり、仙台に戻ります。散髪に行けない母親の髪を自宅で切り、病気で気持ちが沈みがちだった母親を笑顔にできたことが忘れられません。自宅に来た訪問介護士から訪問美容のニーズを聞き、母親以外の人の家でも髪を切り始めました。

「困っている人へピンポイントで手助けできる仕事を続けたい」と白鳥さん。人づてで仕事が広がり、社会的必要性を感じています。今日もキレイを求める人の懐に飛び込みます。

取材・文 満井 貴久

特集

歴史と自然の再発見

運河を活用した復興まちづくり

Hair Designer 白鳥 ゆい

Mail canoaproject.1125@gmail.com

TEL 090-9967-8448（ご予約は前日までご連絡ください）

白鳥さんは、完全予約制のプライベートヘアデザイナーです。ご自宅へ伺い、美容サービスを提供します。訪問美容の対象者は法律で定められているため、ご来店が可能な方は泉中央の仮店舗にての対応となります。時間については応相談。英語での対応も可。日本語が苦手な方もどうぞ。お気軽にご相談ください。価格は3,500円（カットのみ）～4,500円（シャンプー代込）。

歴史と自然の再発見 運河を活用した復興まちづくり

宮城県の海岸沿いにある貞山運河は、石巻の北上川から岩沼の阿武隈川まで全長約49kmあり日本最長の運河です。江戸時代初期から明治時代まで順次整備され歴史的価値を有しています。新浜地区はそんな貞山運河沿いにあり、住民は水遊びや釣りなどで運河に親しんできました。東日本大震災で運河の両岸に植えられたクロマツ林を失った地域において、新浜町内会と貞山運河研究所(以下研究所)が連携して行った地域の歴史や自然の豊かさを伝える取組を紹介します。

貞山運河を活用して新浜の歴史や豊かな自然を知ってもらいたい



貞山運河で船遊びと散策を楽しむ

新浜地区では、町内会と研究所が連携して実施する「貞山運河の利活用による新浜の復興まちづくり」プロジェクトが進んでいます。内容は体験イベント「新浜の渡し船とフットパス※」の実施と「まちあるきマップ作り」。体験イベントは2017年6月から11月まで毎月1回開催し、カヌーや小型和船に乗船して松並木の風景を船から楽しむコースと、渡し船で海岸に渡り海岸散策を楽しむコースの2つに分かれて実施しました。海岸散策では、津波の影響で一時姿を消したハマナスやクロベンケイガニなどの動植物が復活した姿が見られました。参加した新浜に住む男性は「震災後初めて海岸に渡って来た。若い頃この海岸で地引網を引き魚を採り、地区で分配して食べたことを思い出す」と語りました。カヌー体験に参加した小学生は「カヌーを漕ぐのが楽しかった。また来たい」と喜んでいました。

貞山運河と地域の良さをもっと知ってほしい

新浜地区は海岸に近かったため東日本大震災で津波被害が地域全体にわたり、住民は小学校などでの避難生活を余儀なくさせられま

した。2011年11月、ほとんどの地区が居住可能になりましたが、さまざまな事情で戻る世帯はあまり多くありませんでした。

2014年、環境団体スタッフ、大学教授、専門家などが貞山運河を観光資源として利活用することを目的に研究所を設立しました。研究所は行政、大学、地域と連携しながら貞山運河の調査や研究を行いました。2015年には、研究所と新浜町内会が共催して「海岸公園と貞山運河の利活用」ミニフォーラムを実施。研究所、町内会、行政、大学から60名以上が参加し、海岸地区の現状を視察しました。地域の参加者からは、「以前は海辺でいろいろなことをやったので、懐かしくなった」「再び海で遊びたい」といった意見が出され、研究所も地域資源としての価値を高める必要性を再認識しました。地域の自然を再生し、多くの人に新浜に来てもらって自然や歴史を体験してもらいたいという思いが重なり、新浜町内会と研究所が連携してプロジェクトを行うことにつながったのです。

プロジェクトで新浜町内会は渡し船の管理や運河沿いの地域と連携調整を行い、研究所はフットパスという手法を取り入れた企画を立案し、事務局を担いました。東北学院大学の里山や里地が専門の平吹ゼミと歴史の専門である菊池ゼミの協力で、参加者に自然や歴



連絡先

・新浜町内会 022-781-8448 (平山)
・貞山運河研究所 事務局 090-4630-8344 (遠藤) HP <http://teizan-canal.com>
プロジェクトは、3月にシンポジウムを開催予定。「新浜の渡し船とフットパス」事業の成果発表と「まちあるきマップ」の完成披露を行います。

史について解説を行い、地域の良さを伝えることができました。

地域の歴史を継承して生かす

研究所副会長の佐藤彰男さんは「貞山運河の一部だけでなく全体を通して歴史遺産としての価値を高め、観光資源として利活用したい」と話します。作成中の「まちあるきマップ」には新浜地区だけではなく貞山運河の全体像を収める予定になっており、新浜から始まった活動を徐々に全域に広げたいと思っています。

イベントでは、初めての船遊び体験で豊かな自然に興味を持った小学生と保護者の姿がありました。そんな姿を見た新浜町内会長の平山新悦さんは、「新浜の住人は貞山運河や海で魚を採ったり、クロマツ林できこ狩りをしたり、豊かな自然の中の暮らしを昔から受け継いできた。新浜の良さを知った人がいずれは居住してほしい」と地域の営みを後世に伝える思いを語ります。(取材・文 嶋村威臣)

※フットパス：森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと。

ここチェック

「命の大切さ」を共に考えてみませんか？
POSH PROJECT「筋骨圧迫・AEDの使用法を学ぶ！」

アニメを使って短時間で学べる心肺蘇生法「PUSH PROJECT」のワークショップを行います。親子・お友達同士はもちろん、一人での参加もOKです。

日時:11月26日(日)10:30-11:30 場所:仙台国際センター展示棟 屋外テント(仙台市青葉区)

「第2回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)」企画

定員:20名(申込み先着順・11月20日締切り)

氏名・電話番号・メールアドレスを明記しメールで申込み

申込み問い合わせ:わしん倶楽部 Mail sendai.seibou@docomo.ne.jp



「痛い痛い飛んでいけ」。誰かの手のぬくもりで痛みが和らいだことはありませんか。触れ合いが、安心感をもたらすホルモン「オキシトシン」の分泌を促すと言われています。地域福祉アロマケアラー協会は、2016年に設立。仙台を事務局に、障害者施設などを訪問しています。「アロマケア活動」と銘打ち、精油で嗅覚を刺激し、自律神経や免疫系など脳に働きかける「アロマセラピー」、マッサージを施し触覚に働きかける「タッチケア」を組み合わせた福祉活動に励みます。合言葉は「できる人が、できることを、できるときに」。アロマを通して人の役に立ちたいという思いを持つ人が、障がいや病気、何らかのストレスを抱える人に安らぎの時間を提供しています。



▲「あなたは、あなたのままでいい!」と、思いを込めてケアします。

理事の佐藤智子さんには障がいのある娘さんがいます。免疫力が弱く、自然療法の一環でアロマに出会いました。さらに「娘にとって、どんな薬よりも効くのは娘の背中をさする私の手。互いの繋がりを実感でき、私自身も深く安心することができました」と、タッチケアの原点を話します。お互いに良い影響を与え合うことから、「障がいがあっても、当事者の視点を活かして誰かを癒すことができる」と、障がい者セラピスト「アロマピアラー」の養成にも力を入れます。

日頃、ストレスを抱える人も多いと感じます。触れ合いて互いを認め合い少しずつ笑顔に。丁寧な活動の積み重ねが続いています。

■連絡先

一般社団法人地域福祉アロマケアラー協会事務局

仙台市青葉区昭和町2-23-701

TEL&FAX 022-341-6909

HP <http://arocare.net>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/fukusilaroma/>

お立ち本

熱血荒町風雲録

著者:出雲幸五郎 出版:無明舎

仙台の街に古くからある荒町商店街。毛筆キャッチコピーが貼り出されるお店として話題を呼んだ名物店主が書くエッセイとコラムです。話題は著者の戦前・戦後の苦い思い出から、商店街の活性化とまちづくりの取り組みまで、多種多方面にわたります。楽しみながらまちづくりのヒントを得られる一冊です。



コラム

自動販売機が募金箱になる!?

『ハートフルベンダー』

「赤い羽根共同募金」への募金ができる自動販売機、『ハートフルベンダー』。ジュース等のボタンのほかに10円と100円の募金ボタンが付いているのが大きな特徴です。集められた募金は、各種福祉、社会事業団体に配分され、社会福祉や地域福祉などに活用されます。

問い合わせ:認定特定非営利活動法人ハートフル福祉募金

HP <http://www.hfv-bokin.jp/>

TEL(フリーダイヤル) 0120-821-373

FAX 022-281-8232

